公募団体 初の試み

「中山先生、若手と語る。」「公開クロッキー講座」

会場上映・YouTube動画配信中 3月24日㈭（午後2時～）に開催

白日会第92回展開催にあたり

白日会に息づく「写実」――時代を経てなお確かなもの

白日会といえば「写実」との世評を頂いているのですが、なかなか「写実」という観念をお伝えするのは難しくあります。大正期から戦前くらいまでの美術界では、セザンヌやゴッホの様な作品や取り組みに対し特に「写実」と命名し、所謂「写生」と同時に「ダダ・シュール」と区別していたと推測されます。例えば、安井曾太郎、坂本繁二郎、須田国太郎らは、自分の表現を「写実」だと言っています。今の感覚とはずいぶんと違う様に思えます。西洋語の「リアリズム」は「現実主義」と翻訳されるべきだったかも知れません。もちろん言葉の観念とイメージは時代と共に変化します。

白日会では昨年秋に、中山忠彦会長が、前会長の伊藤清永先生に続き、終身会長に就任しました。中山会長の言葉を借りれば、「写実」とは、見えるものを通して、見えないものを描くということとなるのですが、それは白日会の先達から受け継ぎ、また先達が目指し続けてきたことでもあります。また日本人が絵を描く動機、また絵から感じとろうとする何かもここにあり、それは過去も現代も未来も、時代の流行の変転があったとしても変わらない確かなものがそこにあると言えます。こうした写実の筋道を通じて白日会の92回展の出品作品の全体をご高覧頂ければ幸いです。

白日会は結成当初より「研究団体」を標榜してきました。会場のモニターにて「中山先生、若手と語る。」と題しました中山会長の画論を若手が伺うという趣旨の座談会の映像を公開し、すでにYouTube動画にて配信しております。また期間中の3月24日㈭美術館講堂にて「公開クロッキー講座」（見学無料）を開催し、中山忠彦会長の講義とともに、白日会の三人のプロ作家が皆さんの前で実演します。伝統的に美術の「研究団体」である白日会の一面も是非ご覧ください。

（寺久保文宣　白日会常任委員・白日会事務所）

広田稔「August 12, 2013 No.50」
A3　木炭

デモンストレーションでモデルをつとめる
北川ななみさん

第92回白日会展
3月16日㈬～28日㈪国立新美術館
（東京都港区六本木7－22－2）
☎03－5777－8600 ㊡3月22日㈫ ㊔一般800円
◎公開クロッキー講座
デッサン講義：
　中山忠彦（日本藝術院会員、白日会会長）
クロッキーのデモンストレーションと解説：
　高梨芳実・広田稔・岡田高弘
3月24日㈭ 午後2時～ ㊔同館3階講堂 ㊔無料